

活動動機 伝統を残す

私がこのテーマにした理由は、自分が獅子舞をやっていたことから、少なからず思い入れがあり、私が郡上を出た後も続いていたほしいと思ったからです。

研究内容

1. 獅子舞の歴史

そもそも「シシ」とは古語では食用の肉のほかイノシシ、カノシシなど獣一般を指し、地域ごとに神や信仰と結びつけて考えられていました。『日本書紀』には弘計王が鹿の角を奉じて舞った記述があり、日本には「一人立の獅子舞」が「二人立の獅子舞」の到来以前から存在した。推古天皇 20 年（612 年）に中国から日本に伎楽が伝えられたが、その演目の中に唐獅子の舞があり、当時は帥子と表記していた。帥子舞は舞場の邪気を祓う舞として伎楽の最初に演じられ、天平 19 年（747 年）に提出された『法隆寺伽藍縁起并流記資材帳』では伎楽の道具の中には、五色の毛を植えた帥子頭と胴幕を持つ二人立の獅子が記されています。

2. 大和の獅子舞の歴史

安政のころ（一八五四～五九）には大神楽が行われていたが、明治二七年（一八九四）に拝殿が焼失してから途絶え、大正年間に八幡町吉田から伊勢神楽が伝えられました。以後、一年に一回奉納が行われています。伊勢神楽は四か所で奉納され、その順序は午後一時から区長宅、薬師神社、稻荷神社、河辺神社と回る。神神楽の「幕前」「鈴の舞」「乱れ獅子」です。

2020 年現在、獅子舞を舞っている人は二人です。後継者は未定、師匠有りです。今の獅子舞は、河辺神社のみで行われます。幕前、幕の舞、鈴の舞、乱獅子の四種類の演目があります。男二人が女物の着物を着て、それぞれ獅子と補助を行います。

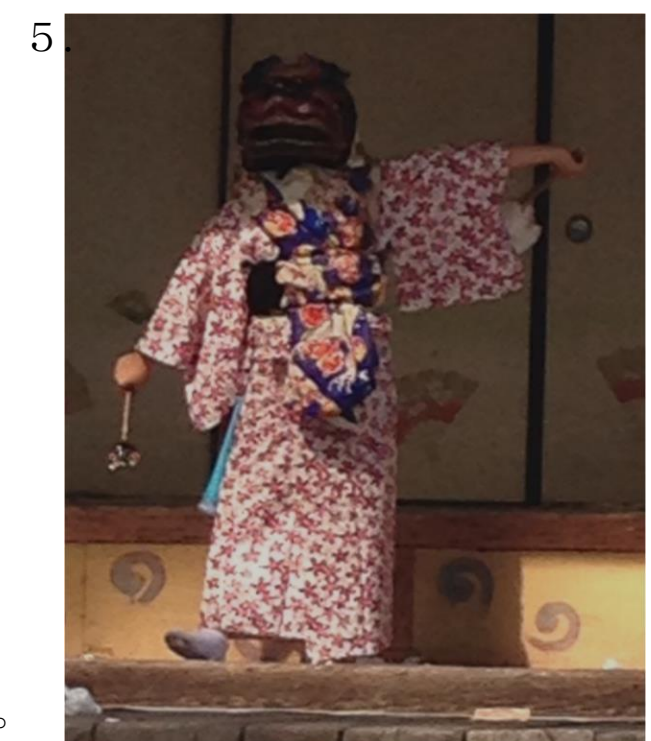
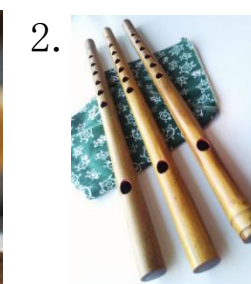
3. 形態

獅子舞で踊る獅子は、1 人で 1 匹の獅子を演じる「一人立の獅子舞」、2 人以上の演者で 1 匹の獅子を演じる「二人立の獅子舞」と、数人から 10 人ほどで 1 匹の獅子を演じる「むかで獅子」に分類される。「二人立」は古代に成立した外来の舞楽・伎楽（ぎがく）系統や散楽から派生し曲芸や軽業と融合し御師と結びついた、伊勢大神楽に代表される大神楽系統が存在する。「一人立」は土着の芸能をもとに中世末から近世初期にかけて成立した風流（ふりゅう）系統といった芸能史的に異なる系統に分かれる。大和の獅子舞は二人立の獅子舞です。

4. 道具

大和の獅子舞で使用される道具

1. 獅子頭（幕付き） 2. 笛 3. 小太鼓 4. 大太鼓 5. 着物



まとめ

これらのデータと練習、本番動画をまとめました。

今回の課題研究を通してわかったことは、獅子舞の歴史と現状、意味などです。また、課題としては、もっと地域とつながれたのではないかといいところ。私は獅子舞を行っていましたが、それでも知らないことが多くありました。改めて獅子舞について知れてうれしく思っています。